

家庭及婦人最良之讀物

女子友記

毎月一回
十八日發行
定價一冊金拾錢
全國無遞送料

女子之友記者編纂

表紙石版彩色摺
口繪寫眞版挿入
定價金廿五錢
郵税金四錢

小兒の行爲

定價金廿五錢
郵税金四錢

小栗風葉、柳川春葉作
徳田秋聲、梶田薄水作

表紙石版彩色摺
製本高尚優美
定價金廿五錢
郵税金四錢

家庭小説

定價金廿五錢
郵税金四錢

速水不染君編

表紙石版彩色摺
口繪寫眞版肖像及畫
定價金廿五錢
郵税金四錢

閨秀畫家經歷談

定價金廿五錢
郵税金四錢

勁林園主人編

表紙石版摺美本
口繪寫眞版數葉挿入
定價各廿五錢
郵税金四錢

ジャング
ル

定價各廿五錢
郵税金四錢

女子之友記者編纂

表紙彩色石版摺
口繪寫眞版挿入
定價各廿五錢
郵税金四錢

明治才媛文集
明治才媛歌集

定價各廿五錢
郵税金四錢

理學博士佐々木忠久郎先生校閲
三宅恒方先生著

初學昆蟲採集法

定價拾五錢
郵税金二錢

我が女子の友は生誕以來非常の健康と幸福とを以て成長發達し來り、今やこの温かなる家庭の寵兒は、齡百を重ねんとするに至れり。何物の光榮か之に加へん。今後は益々其健全を謀り家庭及び婦人が最良の師友たらんことを期すべし。願くは世の婦人女子ならんものは悉く我が女子の友を友として讀むたる家庭に尙一層の和氣を置め以て人生無上の幸福を享けられんことを

發行所 東京神田區鎌倉町三番地 東洋社

國語研究會編

高等普通文綴方教科書

全二冊

第一學年用金十五錢

第三學年用金十五錢

郵稅各金二錢

茨城縣師範學校長

鈴木龜壽氏校閱

湯澤直藏氏著

新令
準據



全二冊

尋常科用 金三十錢

高等科用(男女共用) 金三十錢

郵稅各金四錢

本書は新令實施後全國各府縣に於て最も多數採用せられたる修身の教科書數種に基づき學年別に之が教材を排列し且つ關聯せる事項を配當したるものにて其教材は尋常科にありては男女共通とし高等科にありては男女によりて悉く區別したりされば兒童の境遇に適切なるは勿論一度此書に據りて教授する時は兒童をして自然に法に副ひ公徳を養ふに至らしむべく實に近來無比の良參考書なり

發
兌

東京市日本橋區本石町三丁目二十三番地

金
昌
堂

總裁小松若宮妃周子殿下

私立大日本婦人衛生會

會長侯爵夫人 鍋島榮子 副會長濱尾作子
幹事鳩山夫人以下六名 評議員若干名
贊成員諸名醫大家百餘名

目的

況く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を啓き隨て社會全般の幸福を増進するにあり
毎年八月九月を除くの外毎月一回集會を開き朝野の名醫大家を聘し衛生上の講義演說談話を囑し會員及其同伴人をして聴講せしむ但毎年一回若くは二回懇親會を開き會員相互の親睦を圖る

雜誌

毎月一回定時刊行し無料を以て會員に分つ
●雜誌所載●講演(諸名醫大家の演說)●寄書(大家の寄送)●衛生叢談(衛生上諸般の注意)●中外策報(内外醫事の細大を載す)●養生訓(養生に關する教草)●食物調理法(和洋若くは折衷料理)●其他官令會報等數欄あり
入會の節は住所氏名及び會員の種類を明記し本會事務所(東京市牛込區矢來町三番地)宛申込まるべし

會費

會員を終身、特別、通常の三種とし●終身會員は一時金拾圓以上を納むるもの●特別會員毎月二十錢以上●通常會員一ヶ月拾錢を納むる者とし府下の會員へは毎月領收人を差出すべし
●地方にある會員は三ヶ月以上半ヶ年若くは一ヶ年分を東京市牛込郵便局宛小爲替にて前納せらるべきこと但郵券代用一割増
男子にして本會の趣旨を賛成する者は之を贊成員とす其會費は本會々員に同じ

支會

本會には新潟、山形、千葉、宇都宮の四ヶ所にあり地方に於て本會々員十名以上の發起人あるときは本會長の承認を経て支會を設立することを得詳細は事務所へ紹介せらるべし

明治三十四年八月

事務所東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

割烹生徒募集

來九月一日より從來本科外に左の簡易科
を設け初學者の便益を計る

簡易科

授業日毎週一回金曜午後

學科 割烹初步實地授業

卒業 三ヶ月

○詳細は本科と共に規則書に記せり

東京市京橋區鈴木町十一番地
京橋北
東横町

石井割烹教場

考 古 界

第一篇第三號目次

定價十二錢 郵稅二錢 每月一回二十日發行

口繪寫眞版

○播磨發見の瓦經

論說及考證

○探古考證雜抄

○四方寺印の考

○掃部長者の膳の話

○過海大師東征傳に記されし錢

○貨名稱考

○死體埋葬に甕を用ゐし事實の

○研究

○古墳發見に關する農具に就

て

○正倉院文書の種類

○埼玉縣所在鰐口年表

○鐵鏡銅鏡の製法に就いて

○傳聲器瑠璃字普流

○虎御前及少將の笈

○上總國長保郡山根郷小村飯尾

○の銘ある鰐口に就いて

○考古雜綴 第二回

雜 錄

○正倉院文書の種類

○埼玉縣所在鰐口年表

○鐵鏡銅鏡の製法に就いて

○傳聲器瑠璃字普流

○虎御前及少將の笈

○上總國長保郡山根郷小村飯尾

○の銘ある鰐口に就いて

○考古雜綴 第二回

彙 報 十數件

東京市日本橋區本町三丁目十七番地

大賣捌所

金港堂書籍株式會社

帝國婦人協會發行

日本婦人

第貳拾貳號

八月廿五日發兌

「日本婦人」は、創刊以來常に世の風潮に先んじ、自ら期して中國社會の指導を以て任せり。其記事體裁の高尙優雅にして、俗流に超越せるは、已に世の定評ある所なり。思ふに搖籃を搖かすの手は、以て能く天下を搖かすに足る、社會風潮の清濁は、其源男子にあらずして女子に在り。一家を釐正し一國の風教を善美ならしむるもの實に女子の勢化によらざるを得んや。顧みて我國現下の状態を見れば、新舊過度の時代や。顧みて我國現下の状態を見れば、新舊過度の時代や。往昔に比して、寧萎靡退歩せるの感なき能はざるなり。吾人徳薄く、力非なりと雖も敢て吾か信する所を以て、其微力の盡くるまで、世の至仁眞誠志を同しうするの諸賢に、其同情同感を乞ふんとす。「日本婦人」は斯くの如き意氣、斯くの如き微衷を持し、我々を導き、而かも徐ろに、婦人社會の木鐸となり、風教を純正畫一ならしめ、以て聊か貢獻する所あらんとを期す。次號よりは、發行期を十五日とし、記事舛裁も共に革新する所あるべし。

目 要

- | | |
|-------------|-----------|
| ○卷首筆蹟 | 高崎御所々々長壽贊 |
| ○女子の智育につきて | 下田歌子 |
| ○各位の草めき權議 | 井上歌子 |
| ○枕草子講義 | 川上歌子 |
| ○源氏物語史談 | 關正直花 |
| ○動物談 | 小野山 |
| ○書方談 | 小野山 |
| ○看聽法講義 | 三野秀 |
| ○表外遊戯 | 小野秀 |
| ○裁縫遊戯 | 武田英太郎 |
| ○料理花 | 武田英太郎 |
| ○編もの | 山田富松 |
| ○押繪の | 藤中富松 |
| ○日本人の體育につきて | 高木兼寛 |
| ○居根下の哲學者 | 淺岡 |
- 和歌募集

每號懸賞

毎月一回
定價一部金拾五錢
郵税一冊金壹錢
會員へは無料にて配付す

帝國婦人協會
町區元園町二丁目
電話番 六四六

(前付の六)

大日本婦人聯合會機關



毎週
月曜

婦女新聞は明治三十三年五月十日皇太子
殿下御慶事の記念として第一號を發行し
爾後毎週日を誤りたることなし

（定價）

一部金三錢 ▲一ヶ月十二錢 ▲三ヶ月三十七錢 ▲半年七十二錢 ▲一年一圓三十五錢 ▲全國無郵税 ▲郵券代
用は一割増 ▲見本に限り往復はがきにて申込あらば呈す

（社説）は常に婦人界の羅針盤となり（訪問）は名流の女子教育談、家庭談、學術談を掲げ（子
供）は無邪氣の子供の行爲を集め（家庭）には主婦の心得となるべき事柄（參觀）は女學校
孤兒院工場等の參觀記（小説）は純潔清新のもの（衛生問答）は衛生に關する一般の質問に
答へ（はがきよせ）は讀者の聲にして婦人の輿論をこゝに見るべし（雜報）は婦人として心
得べき社會の出來事及び全國の婦人會女學校の消息を傳へ（東西南北）は世界の出來事
に對する二行の短評なり其他（科學）講義（文苑）演壇等いづれも有益苟も時勢に後れさ
らんとする婦人は必ず本紙を讀まざるべからず、卑猥なる記事を以て充たされたる新
聞紙に眉を顰むる人は乞ふこの婦女新聞をとりてその清潔なる家庭の友とせられんこ
とを。

發行所

東京市神田區
三崎町一丁目十番地

婦女新聞社

電話本局二千六百九十七番

特約販賣店

明治館 ▲東京堂 ▲東海信文合資會社 ▲北隆館 ▲盛文堂 ▲勉強堂 ▲其他重なる雜誌店

此廣告に依り御注文の方婦人子供を見たる旨御附記を乞ふ

毎月廿日發行

毎月廿日發行

女學 姬 百 合 雜誌

定價郵稅共前一金 卅一拾壹錢六分 卅二錢十 卅一圓郵券一割増

本誌聊見るところあり大に規模を擴張して女子の記者數名を増聘し、七日二十日發行の第四卷第一を以て誌面に一大刷新を加へたり。幾多の婦人雜誌未儒眠より醒めざるに際し、本誌の刷新が如何に光彩を放つかを見よ。

姫百合は營利的販賣物にあらず。自ら負ふところありて生れたるもの、誌上に於ける筆路は甚だ公明正大なり。

立言正確、議論縱横、婦人の爲に社會に訴ふるところ少からず。婦人の爲に猛省を促すところ少からず。纏つてその友として筆を執れば、丁寧親切よく三才の童女と雖愛讀措く能はざらしむ。蓋婦人雜誌界の覇たるべし。

本誌は刷新に際しまづ紙面を擴張して四六判二倍の大冊子としたり。

毎號多數の寫真版亞鉛版木版等を挿入す。

「主義」欄「啓發」欄は能く女子の師とすべく、「談話」欄は慈母が説くところの談話として聞くべし。「美文」「長詩」「短詩」の三欄は識らず知らずの間に美情を養ふを期し「小説」欄は以て社會的常識を發達せしむるに足る「團樂」小女に到つては筆法忽ち一轉、小女の爲にお伽噺をかたり、家庭團樂のうちに加はりて珍談奇說縷々として盡さず。全篇委く金玉の文字、大家筆に成るもの又少からず。

加ふるに毎號大方才媛の寄稿を歡迎して錦上更に珠を飾らむとす。

(前付の八)

社合百姬

東京市神田區
北神保町三番地

發行所